

危険です！大雨による土砂災害！

土砂災害が起こる主な原因は、長雨や大雨です。下の表をもとに、気象状況と警報発令時の行動を確認しましょう。

気象状況	大雨前日	雨が降る	大雨	記録的大雨
警報注意報		大雨注意報	大雨・洪水警報 土砂災害警戒情報	大雨特別警報
行動	- 気象情報の確認 - 避難場所の確認 - 避難経路の確認	- 避難の準備 - 支援が必要な場合は早めの避難	安全な場所へ避難	市からの避難情報に従い、適切な行動を！
市からの避難情報	避難準備情報 → 避難勧告 → 避難指示			

いすみ市土砂災害避難訓練を行いました！

いすみ市は、土砂災害の発生の恐れのある「土砂災害危険箇所」が県下でも非常に多い地域であり、過去にも崖崩れによる土砂災害が発生し大きな被害を受けていることから、土砂災害から命を守るために、夷隅地域の千町地区を対象に土砂災害避難訓練を実施しました。

今回の訓練は、「梅雨前線による集中豪雨で土砂災害警戒情報が発表され、千町地区に土砂災害発生の恐れがある」との想定で、避難対象地域の千町地区に防災行政無線等により避難勧告を発令するとともに、消防・警察・郵便局等の関係機関による広報により、千町地区在住の方、約160名が、指定避難所である千町小学校体育館へ避難し、情報伝達・手段の確認、避難経路・避難要領等の確認を行いました。

避難所内では、消防及び防災士会や女性の会によるAEDや応急手当の仕方、夷隅土木事務所による「土砂災害」に関する防災講話があり、被災時の応急対応や土砂災害について学ぶことができ、防災知識の向上を図ることができました。

また、今日の訓練のアンケート結果から、「避難経路、避難場所、避難方法を確認できた。」といった回答が多く見られ、地域住民の方々に土砂災害発生時の避難行動を確認して頂くことができ、防災意識の醸成が図られました。



（風呂敷を使った、リュックサックの作成）



（要配慮者の避難支援）



（避難所内）

避難訓練に参加しましょう！

いすみ市では、土砂災害から市民の生命財産を守るために、継続して土砂災害避難訓練を実施していく予定です。

避難訓練では、避難経路、避難所（場所）の確認や、緊急時の行動を確認することができます。

災害が発生しても被害を最小限にできるよう、避難訓練へ積極的に参加して、防災意識を高めましょう。



（炊出し）



（身近な物での応急処置）

自主防災組織とは

地域における助け合いによって「自分達の地域は自分たちで守る」という「共助」の精神に基づき、地震、風水害及び火災等の災害が発生、又は発生する恐れがある場合に被害を防止、もしくは軽減、予防するため、地域住民が自主的に結成し運営する組織、これが「**自主防災組織**」です。

地域自主防災会の活動報告！

《岬地域の「四堰地区自主防災会」が避難訓練を実施しました》

四堰地区自主防災会は、毎年、地区内での消火訓練・三角布等を使った救急処置・津波避難訓練や地震・津波に関する勉強会等を開催し、防災意識の向上に努めています。

今回の訓練は、昨年、地域住民の防災意識を高めるため、中根小学校を会場に「切迫する房総地震と火山の連動性」と題した学習会を開催、その中で、市の津波想定が、津波到達時間約 20 分、津波高 9.9m の津波が襲来すると想定されていることから、現在の津波避難場所よりも更に高い場所に避難した方が良いのではないか、という意見が多く出されたことから、避難計画を変更し、今回、高台への避難訓練を実施しました。

訓練の実施に当たっては、高台避難の必要性を理解してもらい一人でも多くの方に訓練に参加してもらうため、避難誘導班が、昨年 12 月計画、立案し、今年の 4 月から避難訓練実施の回覧を 3 回配布するとともに、地元消防団による広報を 3 回行い、訓練参加を呼びかけました。

訓練当日は、地区在住の医師と看護師による救護所の開設、各種団体による避難場所の整地と設営準備など、これまでの訓練準備に携わった消火班、救出救護班の支援、避難誘導班による避難誘導があり、大人から子供まで、約 170 名の方が避難経路など避難要領を確認しながら地区中心部から約 1.5km 離れた高台を目指し避難を行い、約 25 分で避難が完了しました。特に、今回の訓練では、避難に際し、避難者や要配慮者の安否確認を速やかに行う必要があることから、避難誘導班が、事前に家族カードを作成し、地区内の要配慮者を含めた各家庭の家族情報を取りまとめ、高台に避難した避難者の確認と避難家族の安否確認訓練を行いました。

また、高台の避難場所では、給食給水班が炊き出しにより、250 食分の五目御飯を用意して、避難者を受け入れました。

今回の訓練を通して、高台への避難経路など災害発生時の避難行動を確認し、防災意識の醸成が図られ、更には、自主防災会をはじめ、各種ボランティア団体と、地区内のすべての人が連携協力し訓練を行ったことにより、地区内の連帯感が生まれ、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」を実践することが出来ました。

自主防災組織の設置を！

災害が発生したとき、普段から生活環境を共有している、地域住民同士が相互に協力し合う「共助」が被害軽減のために、最も重要な行動となります。

また、災害についての知識や、避難所（場所）の把握など、普段からの取り組みも大きな効果へとつながります。そのためにも、各地域に自主防災組織を設置して災害に備えましょう。



安否確認及び被害状況の確認



地元医師・看護師による救護所の開設

子供達への防災教育



五目御飯の炊出



炊出しの配布



高台に避難した避難者に対し避難行動の必要性の説明

避難誘導看板